

児童発達支援事業所における自己評価

討議年月日：2020年11月17日～12月15日

公表：2021年1月20日

事業所名 児童発達支援たんぽぽ・放課後等デイあさがお

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		一人当たり3㎡の広さを確保した。	新園舎が2019年12月に完成し、指導訓練室は32.58㎡ある。
	2	職員の配置数は適切である	○		職員の定着	充足している
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○	保育室は日当たりのいい部屋にしている。	新園舎では1階にありバリアフリーになっている。日常的に過ごすのは、隣接する保育園の1室を利用している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			コロナ感染予防のため、1時間ごとの換気と消毒、手洗い、検温を実施した。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		日々子どもの姿を語り合う。	職員でその日の振り返りをするとともに、子どもの姿を出し合い、子どもの気持ちを探り、取り組み内容や必要な支援を計画・実践し、見直ししている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		定期的に自己評価を行い、業務内容を見直している。	アンケートのほか、お迎え時に声をかけ、保護者の要望、悩みなどを聞きとっている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		2019年2月からホームページに公開している。	自己評価の結果を個別に報告するとともに、ファイルに綴じいつでも閲覧できるようにしている。毎年自己評価を行い改善点などをのせて公開している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		外部評価は実施していない
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		個別の障害についての学習や発達について学ぶ。	今年度はコロナで外部の研修の機会が減ったので、指定文献を読んで学習した。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		複数の職員で検討する。	計画を立てる時には個別に保護者からの聞き取りを行うとともに、職員で子どもの現状と課題を論議して作成している。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		独自に作成しているアセスメント表には、その子の発達状況や家庭での様子など詳しくとらえられるような項目を設定した	独自様式で作成しているアセスメント表を見直し、苦手なことや興味のあることなども聞き取り、子どもの姿よりの確に把握できるようにした。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		子どもと保護者への支援について、いろいろな意見が出しやすいような職員間の雰囲気をつくることを大切にしている。	子どもの姿を発達の視点で見つめ、課題を明らかにするとともにその子の得意な分野を生かして活動を組み立てている。ままごとや絵本やボールなど、誰もが親しんでいる教材やあそびを準備し保育者と一緒にたのしくあそぶ体験も大切にする。また、毎日散歩に出かけて、体を十分に動かすことや一人一人のすきなあそびをたっぷり保障し、“あれやりたい”と自らあそび始める意欲を育てる。 3歳以上になると保育園・幼稚園に入園希望される方も多く、不安も大きいため、これまでの経験を話すなど、相談にのっている。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		子どもへの必要な配慮についても確認する	その日の担当や役割を確認するだけでなく、前回の様子を振り返る。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		記録を残す。	日々の打ち合わせで子どもの姿やその日の取り組みをふりかえる。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		子どもの姿を具体的に書く。	日誌にその日の取り組みとともに、子どもの様子を記録している。	

20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○	「できる・できない」と目に見える変化だけをとらえるのではなく、子どもの内面の育ちも把握し、成長を確認する。	半年に1回の計画作成時以外にも、子どもの変化に応じて計画を見直している。
----	---------------------------------------	---	---	--------------------------------------

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		子どもの担当がおおよそ決まっているので、担当者が出るようにしている。	積極的に参加している。なかなか担当者会議が開かれないうちがあるため、相談支援事業所に開催希望を積極的に伝えていく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		連絡待ちになるのではなく、こちらからも連絡する。	相談支援事業所や療育センターなどと連携している。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		医療的ケアが必要な子どもを受け入れている。その場合には、看護師を配置している。また、訪問看護の看護師にも訪問してもらっている。	今までのところでは、保護者から主治医の治療方針などを聞いているのでそれに従っている。今後直接聞きたいことなどができてきたら、受診の際に付き添っていく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○			
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		移行期には保護者の方の不安が大きくなるので、知りたいことや不安なことを率直に出してもらい、内容に応じて対応している。	相談支援事業所と連携して、必要があれば保育園等に連絡して情報共有している
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		何かの時にすぐに連絡が取りやすいように、日ごろから知り合うことを大切にしている。	自立支援協議会の児童部会の学習等で交流している。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		保育園の一時保育の子どもたちと一緒にあそぶ。	保育園に隣接しているため、日常的に交流している。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		児童部会の取り組みや研修は、勤務に位置付けて参加する。	事例検討で事例を提供するなど、積極的に参加している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		ノートにはその日の様子の写真も張るなどして、具体的に姿が伝わるように工夫している。	毎日の連絡ノートやお迎え時の個別面談で、子どもの様子を具体的に伝えるとともに、保護者の不安や家庭の状況をも聞き取り、子どものことを一緒に考える。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○				
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時には時間を取って個別に説明している。	している。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		食事・排泄・睡眠など日常生活での困りごとを抱える保護者が多いため、デイの様子を伝えながら、一緒に対策を考えている。デイでは他の子がいるからやる気になることもあるので、あせらなくていいことや家庭ではなかなかうまくいかないものだと伝えて、子育てに自信や安心感をもてるように援助している。	はじめの計画作成時や半年に1回の計画見直し時には、保護者の要望や意見を個別にきいて計画に反映させている。保護者の要望も盛り込んだ計画が作成出来たら、個別に説明を行い同意を得ている。計画作成時だけでなく、日々の送迎時に日常生活の中でおきる困りごとでも気軽に出してもらい、相談にのっている。保護者同士のつながりも大切にしている。昨年度実施した懇談会を今年度は2回実施する予定だったが、コロナで1回のみ開催となったのは残念だった。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		資料はカギのかかる書庫保存。パソコンはパスワード設定。	個人情報の取り扱いは、職員全員に徹底するとともに、個別に相談を受ける場合にも個室で行うなどの配慮をしている。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		機会があれば行事にも参加するようにしている。	コロナがおさまるまではバザー等の取り組みを中止した。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		毎月避難訓練実施 プールの前には蘇生法実技研修実施	各種規定とともに、事故予防のための安全規程を策定している。またヒヤリハットの記入も行い、隔月で検討会も開催して事故予防に努めている。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		災害はいつ発生するかわからないので、いろいろな時間帯に実施している	毎月実施し、記録を残している。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		アレルギーのため食品除去が必要な場合は、前もって献立表を渡して確認している。	アセスメントシートに記入欄が設定してある。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			医師の指示書を提出してもらっている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		臨時職員も順に参加している。	安全のための委員会を隔月実施。原因と対策を検討している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		着替えの時など異変がないか確認している。	参加している。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		人権の尊重	危険回避のため、やむを得ず行動を止めたりした時は、状況を日誌に書き込めるようにした。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。